

住宅課題賞2022参加大学(学校数:41大学/56学科)

01. 足利大学 工学部 創生工学科 建築・土木分野 建築学コース
02. 茨城大学 工学部 都市システム工学科 建築デザインプログラム
03. 宇都宮大学 地域デザイン科学部 建築都市デザイン学科
04. 大妻女子大学 社会情報学部 社会情報学科 環境情報学専攻
05. 神奈川大学 工学部 建築学科 建築デザインコース
06. 関東学院大学 建築・環境学部 建築・環境学科 建築デザインコース
07. 関東学院大学 建築・環境学部 建築・環境学科 すまいデザインコース
08. 共立女子大学 家政学部 建築・デザイン学科 建築コース 建築分野
09. 慶應義塾大学 環境情報学部
10. 慶應義塾大学 理工学部 システムデザイン工学科
11. 工学院大学 建築学部 建築学科
12. 工学院大学 建築学部 建築デザイン学科
13. 工学院大学 建築学部 まちづくり学科
14. 国士館大学 理工学部 理工学科 建築学系
15. 駒沢女子大学 人間総合学群 住空間デザイン学類 建築デザインコース
16. 静岡理工科大学 理工学部 建築学科
17. 芝浦工業大学 建築学部 建築学科 AP コース
18. 芝浦工業大学 建築学部 建築学科 SA コース
19. 芝浦工業大学 建築学部 建築学科 UA コース
20. 昭和女子大学 環境デザイン学部 環境デザイン学科
建築・インテリアデザインコース
21. 女子美術大学 芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻
22. 多摩美術大学 美術学部 環境デザイン学科 建築デザインコース
23. 千葉大学 工学部 総合工学科 都市環境システムコース
24. 千葉工業大学 創造工学部 建築学科
25. 筑波大学 芸術専門学群 デザイン専攻 建築デザイン領域
26. 東海大学 工学部 建築学科
27. 東京大学 工学部 建築学科
28. 東京家政学院大学 現代生活学部 生活デザイン学科
29. 東京藝術大学 美術学部 建築科
30. 東京電機大学 未来科学部 建築学科
31. 東京都市大学 建築都市デザイン学部 建築学科
32. 東京都立大学 都市環境学部 建築学科
33. 東京理科大学 工学部 建築学科
34. 東京理科大学 理工学部 建築学科
35. 東洋大学 理工学部 建築学科
36. 東洋大学 ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科
37. 日本大学 芸術学部 デザイン学科
38. 日本大学 生産工学部 建築工学科 建築総合コース
39. 日本大学 生産工学部 建築工学科 建築デザインコース
40. 日本大学 生産工学部 建築工学科 居住空間デザインコース
41. 日本大学 理工学部 建築学科
42. 日本大学 理工学部 海洋建築工学科
43. 日本工業大学 建築学部 建築学科 建築コース
44. 日本工業大学 建築学部 建築学科 生活環境デザインコース
45. 日本女子大学 家政学部 住居学科
居住環境デザイン専攻・建築デザイン専攻
46. 文化学園大学 造形学部 建築・インテリア学科
47. 法政大学 デザイン工学部 建築学科
48. 前橋工科大学 工学部 建築学科
49. 前橋工科大学 工学部 総合デザイン工学科
50. 武蔵野大学 工学部 建築デザイン学科
51. 武蔵野美術大学 造形学部 建築学科
52. 明海大学 不動産学部 不動産学科 デザインコース
53. 明治大学 理工学部 建築学科
54. ものつくり大学 技能工芸学部 建設学科 建築デザインコース
55. 横浜国立大学 都市科学部 建築学科
56. 早稲田大学 創造理工学部 建築学科

RESIDENTIAL STUDIO PROJECT AWARD 2022

41大学56学科の代表作品展[建築系大学住宅課題優秀作品展]

第22回

住宅課題賞2022

41大学56学科の代表作品展[建築系大学住宅課題優秀作品展]
—各々の視点の空間を盛かして—

[開催日時] 2022年11月17日(木)~11月30日(水)10:00~17:30 土曜・日曜・祝日休館

[会場] ギャラリー エー クワッド 〒136-0075 東京都江東区新砂1-1-1 竹中工務店東京本店内1F
(TEL) 03-6660-6011 (URL) <https://www.a-quad.jp/>



第22回

住宅課題賞2022

—各々の視点の空間を生かして—

ごあいさつ

東京建築士会は、東京都の建築士有資格者団体として、また東京都指定登録機関として建築士の業務の進歩改善と品位の維持向上を図り、さらに生活環境の向上と建築文化の進展に寄与することを目的として、様々な活動を通し、建築情報を提供しながら建築士制度の普及に努めています。

平成13年より企画して参りました「住宅課題賞」入選作品展(建築系大学住宅課題優秀作品展)は、本年も昨年に引き続き、ギャラリー エー クワッドのご協力により、同会場において実施する運びとなりました。この企画は22回目を迎え、本年は関東圏の建築系大学より41大学56学科と年々参加大学も増加しました。

建築士の少子高齢化と言われ、有資格者の高齢化が進んで来ている今、若い力を求めています。また、AIの代替え可能である仕事とも言われています。例えば基本設計のプランニングや実施図面作成、見積もり業務などAIへ、しかし人間の感情面まで介入することはできません。顧客にとって最適な提案をすることは人間にしかできませんので、建築士がよりクリエイティブな仕事に専念できるようになるでしょう。

この「住宅課題賞」が、将来のある学生の皆様に、その楽しさと社会的な意義を深めていただくと同時に、建築士会会員をはじめ第一線で活躍されている建築士と各大学間における建築教育の情報交換及び交流の場となれば幸いです。

また、この入選作品を公開展示することにより、建築に携わる方々への新鮮な刺激と、より多くの人々に建築への理解を一層深めていただける機会になることを望んでいます。

なお、本展に際し、企画運営にご協力いただきました関係各位の皆様に厚く御礼申し上げます。

不安定な社会情勢や感染への不安が残る日々を共に乗り越えていくことができたらと思っております。

2022年11月
一般社団法人 東京建築士会

出展規定

【参加条件】

貴大学で行われている住宅設計課題の優秀作品を1作品推薦。

学部生、1年～3年時の作品(作成時)とする。

課題作品は、令和3年9月(前年後期)以降のものとする。

出題ペーパーと学生の作品(図面及び模型)両方を展示する。

【出展規定】

図面：A1版(縦841mm×横594mm、厚さ5mm)レイアウトは縦使いに統一、1枚とする。

ステレンボードなどに貼られたもので、ぶら下げられる重さのものとし、枠はなしとする。

模型：縮尺は1/50に原則統一、1点とする。

大きさは敷地含め、幅1,100mm×奥行700mmの範囲内とし、1点とする。

但し、縮尺と模型サイズ(敷地含む)が合わない場合は、規定サイズ内に収まる縮尺に調整してから搬入する。

※新型コロナウイルス感染防止対策として搬入及び搬出等、密にならないようタイムコントロールを行いますので、速やかに運ぶようご理解の上、協力していただけますようお願い申し上げます。

【賞】

各大学から選ばれた段階で、「住宅課題賞」入選とする。

さらに展示作品の中から「住宅課題賞優秀賞」数点を選出する。

【審査方法】

今年の公開審査は新型コロナウイルス感染防止の観点からオンライン+対面のハイブリッド開催とする。審査は審査員、出展者および運営者のみで開催。

【審査員】

審査員長：植田 実(編集者)

審査員：青木 淳(AS/東京藝術大学教授)

金野 千恵(teco)

高橋 章夫(大成建設 設計本部 デザインプロデュース室長)

高橋 一平(高橋一平建築事務所)

司会進行：宮 晶子(日本女子大学教授/miya akiko architecture atelier)

〈住宅課題賞 入選作品〉

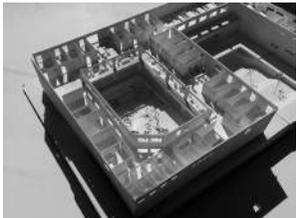


01 「つながり」を創る 集合住宅

本課題はつながりを創る集合住宅が計画目的である。私は人とのつながりに他に外部環境との関係性に着目した。現在は冷房設備などが発展したことにより室内での活動が快適になり、屋外での活動や交流が減少しているように思われる。足利市内の日の中の酷暑をコントロールし、渡良瀬川から吹く風を生かして、建物と外部のつながりを構築し、人々が自然に溶け込める交流空間の計画を心かけた。



保科 遼太(ほしなり しょうた) 足利大学
工学部 創生工学科 建築・土木分野 建築学コース／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:藤谷 英孝
指導教員名:大野 隆司



02 「茨城大学学生寮+国際交流施設建替計画」-Hitachitaga station dormitory-

同じ年代、同じ目的をもつ学生たちを中心とした学生寮という用途を「自由な生活の集合体」と捉え、住民の一体感を生みながらも、個人の自由な生活を過ごすことのできる住宅を考えた。6mの高低差を有する敷地に対して自律した口の字型の空間構成をとることで、その狭間の多様な環境に応じたプライベートとパブリックの濃淡を創出し、住み手のプライベートと他者との交流の場を設計した。



安 郁泉(やすい いくみ) 茨城大学
工学部 都市システム工学科 建築デザインプログラム／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:遠藤 克彦、稲川 隆一
指導教員名:遠藤 克彦、稲川 隆一



04 ギャラリー+カフェ+住宅の設計

中目黒の一角には、地域の魅力を生かし切れない場所が残されている。そのような場を私は「余白」と呼ぶ。そこに魅力的な空間を創造することで、洞の中に吸い込まれたかの様にひとが集まり、周辺環境と混然一体となる様を表現した。また、外と中の繋がりを創ることで、春夏秋冬を肌や視覚で感じてもらい、街の様子がギャラリーとなるようにデザインした。



正津 光彩(しょうつ みさ) 大妻女子大学
社会情報学部 社会情報学科 環境情報学専攻／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:八木 敦司
指導教員名:柳 秀夫、八木 敦司



06 商業地域に建つ集合住宅

「陳列商店街」 ここは、住民が表現をする場(ディスプレイ)が設けられ、住民が好きに興味を飾り、店舗を開く。そのディスプレイが種となり「飾る」「見る」「話す」などの行動を誘発し、「住人」「暮らす人」「訪れる人」の小さな繋がりが多く生まれ、活気と温かみが溢れる商店街のような集住になる。



久住 悠河(くすみ ゆうが) 関東学院大学
建築・環境学部 建築・環境学科 建築デザインコース／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:柳澤 潤、高橋 潤、野上 恵子
指導教員名:柳澤 潤、高橋 潤、野上 恵子



08 5坪の住まい

軽井沢の森の中に行む吉村山荘の「離れ」の提案。趣味を楽しみながら自然の中での時間をゆったりと過ごすために、森の中に溶け込み浮いているような空間を目指した。森の地形に沿った段差状の床と斜面から突き出すテラスが様々な居場所を作り、吉村山荘とは異なる開放感を感じる。開口部や視線の抜ける工夫がら坪の中で様々な居心地の良さを作り、狭さを感じさせない空間とした。



中田 志乃(なかだしの) 共立女子大学
家政学部 建築・デザイン学科 建築コース 建築分野／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:堀 啓二
指導教員名:堀 啓二、松本 年史、上西 明、高橋 大輔、玄・ペルトー・進来

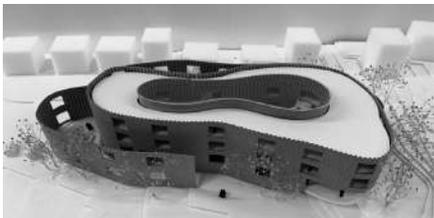


09 デザインスタジオA(住まいと環境)

サヴォア邸の分析から、建物の内外の空間を繋ぎ、変化に富んだ空間体験を実現する装置としての建築的プロムナードを抽出した。設計にあたっては、黄金螺旋を用いた曲線のスロープを建物の外縁に設けることで、周囲からの視線を遮りつつもそれぞれの空間を繋ぎ、光と影を効果的に取り入れる建築的プロムナードを構成した。建物の各構成要素についてもスロープを起点に設計を行った。



大村 まゆ記(おおむら まゆき) 慶應義塾大学
環境情報学部／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:坂 茂
指導教員名:坂 茂、原野 泰典、城所 竜太



11 工学院大学八王子国際留学生寮

大学キャンパスの隣地に留学生のためのドミトリーを提案する。プライバシーを確保しつつすぐそばで仲間を感じ、皆が繋がりがやすい計画にすることで、新しい環境での生活や寮での人間関係など、日々感じる不安が解消される学生寮となることを目指す。中央にコモンスペースを設けることでコミュニケーションの機会を増やし、学生同士の豊かな国際交流の舞台となることを期待する。



塩田 結(しおた ゆい) 工学院大学
建築学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年 出題教員名:樫原 徹
指導教員名:伊藤 博之、大内田 史郎、大塚 篤、林 孝行、高塚 章夫、北澤 伸浩、山門 和枝、今永 和利、塚越 智之、小島 光昭、佐々木 将光、後藤 武



13 外のある家

生活の一部に「外」という空間を取り入れ、敷地内に異なる質の3種類の外を持つ家を考えました。敷地に対して壁の配置する角度や長さ、高さを変えることで生活に溶け込んだ種類の多様な「外」を生み出しました。また、壁の配置や視線の操作によって極力部屋同士が完全に区切られない、空間がつづいていくような家を提案します。



松枝 美羽(まつがえ みう) 工学院大学
建築学部 まちづくり学科／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:富永 祥子 指導教員名:西森 陸雄、境野 健太郎、齋川 拓木、熊木 英雄、小島 真知、長塚 幸助、矢板 久明、山門 和枝、土屋 辰之助



15 新しいシモキタに住むとしたら

再開発が進む下北沢に位置する集合住宅。多くの人が訪れるこのまちでの生活はオープンな暮らしを好む人に適している。家族をこえた個人同士でのコミュニティを各階でつくりだしながら、必要最低限の機能を隠し、靴の着脱と障壁をはさむことで自然な境界のある集合住宅を提案する。パブリックが広がる空間から生み出される生活は個人の特色が表れる表情豊かな集合住宅となるだろう。



大塚 結月(おおつか ゆづき) 駒沢女子大学
人間総合学群 住空間デザイン学類 建築デザインコース／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:田中 昭成、茂木 弥生子
指導教員名:田中 昭成、茂木 弥生子

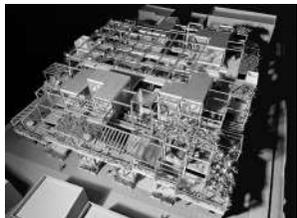


10 戸建て住宅の設計

孤立しがちな屋外空間にスロープを付けることで、庭やテラスが日々の生活により近くなる。スロープは昇るだけでなく、ベンチや庇など生活に根差した様々なものに活用できる。スロープや階段で垂直方向にぐるぐる回遊できるだけでなく、吹抜を中心に同じ階の中で水平方向にも回遊できる。行き止まりのないこの家は、生活にストレスを感じず暮らしが豊かになる。



高田 真之介(たかだ しんのすけ) 慶應義塾大学
理工学部 システムデザイン工学科／3年
課題出題時学年:2年 出題教員名:岸本 達也、赤塚 健、岩澤 拓海、小川 愛実、佐野 哲史、周防 貴之 指導教員名:岸本 達也、赤塚 健、岩澤 拓海、小川 愛実、佐野 哲史、周防 貴之



12 都市居住(都市施設を併設させた新しい集合住宅のかたち)

趣味を持つ単身者のための集合住宅を計画した。山本理顕氏の地域社会圏を参考にし、住宅の要素を寝間・見世・庭の三つの要素に分けた。プライバシーをうまく調節しつつ周辺地域を巻き込んだ交流ができるようにした。「見世」「庭」といった趣味を外に開くことができる空間を住戸とセットにすることで、周辺地域の家族世帯を誘導しつつ、住民が個性を表現できる空間を生み出した。



木川 峻太郎(きかわ しゅんたろう) 工学院大学
建築学部 建築デザイン学科／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:西森 陸雄 指導教員名:西森 陸雄、藤本 隆明、伊藤 博之、星 草志、カーニー マイケル、アラソ・バーデン、内海 彩、戸室 太一

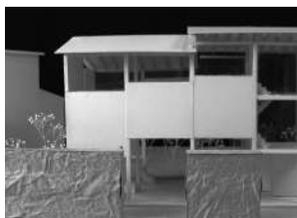


14 緑道に沿って地域に開かれた住宅群「スモールオフィス・スモールコミュニティ」

住宅に付随するワーキングスペースを夫婦で仕事場として利用する共働き世帯が暮らす住居について、仕事場においても、住宅内においても、家族同士が繋がりを保ちながら生活することができる家族を「繋ぐ家」を提案する。また、住宅一体がワーキングスペースに、続けて緑道に寄り添う計画とし、住宅計画を通し地域コミュニティの活性化・一体化をはかる計画とした。



山本 綾奈(やまもと あきな) 国士館大学
理工学部 理工学科 建築学系／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:南 泰裕、高橋 元気
指導教員名:高橋 元気



16 距離のイエ〜都市/風景/建築/ヒト/家具/植栽/モノとの関係を空間化する

この家の住民は、料理が趣味で休日は地域の人を招き入れ一緒に食事をしたいと考えている。そこでキッチンを開放的にするため1階にダイニングも合わせて配置し壁を減らすことで入りやすくなる空間を設計した。家族のプライベート空間を守るため2・3階は目線が重ならないようレベル差を設けた。その差は、家族の目線もずらし自身の場を持ちながらも存在を近くに感じ生活できる家とした。



鈴木 隆公(すずき たかひろ) 静岡理工科大学
理工学部 建築学科／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:脇坂 圭一、佐藤 健司、後藤 周平、日高 恵理香
指導教員名:脇坂 圭一、佐藤 健司、後藤 周平、日高 恵理香

住宅課題賞 入選作品



17 まちに開いたシェアハウス

夕焼けだんだんという人通りの多い計画地で、境界を曖昧にしたシェアハウスを設計する。谷中の路地を動線の交わるアクティブ空間、商店街の店舗を内部の色が溢れ出るプライベート空間にそれぞれ見立て、外部空間と生活領域における境界を緩やかにつないでいる。この路地で住民と地域との交流や住民の庭との調和が可能となり、プラザ/パシーを保ちつつも豊かな生活空間を創り出している。



吉野 由珠(よしの ゆず) 芝浦工業大学
建築学部 建築学科 APコース / 2年
課題出題時学年: 2年
出題教員名: 猪熊 純
指導教員名: 谷口 大造



19 つながりデザインする集合住宅・辰巳の30戸集合住宅

人生の中で人々が求める住環境は変化する。例えば、結婚・出産・子供の成長 / 独立・老化等、同居する人数や世代、健康状態はそれぞれ異なる。快適な暮らしのためには、その度にライフスタイルに合わせた住み替えが必要となるが、同時に慣れ親しんだコミュニティを失ってしまう。そこで、ライフサイクルの様々なフェーズに寄り添った同じ敷地内での引越越しで完結する集合住宅を提案する。



原 洋子(はら ようこ) 芝浦工業大学
建築学部 建築学科 UAコース / 3年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 小崎 芳秀
指導教員名: 田名後 康明



21 住宅計画

「Super-position」は二重か三重以上の状態が重なっている状態を意味する。コロナ禍で、私達は1人で過ごす時間が増え、皆と一緒にいる時間が少なくなった。その問題を解決するため、この二重の状況を重ねて、女子美生徒(4人)のためのシェアハウスを提案する。



周 悦(しゅう えつ) 女子美術大学
芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻 / 4年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 松本 加恵、高原 真央
指導教員名: 松本 加恵、高原 真央

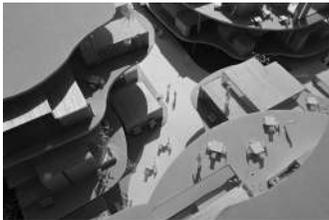


23 「都市を読み、住宅を構想する」

自転車好き4人が住むシェアハウスと、サイクルサービスを提供する場所の併用住宅を提案する。自転車は手軽で環境に良い乗り物。この提案は、そんな自転車を利用して街を活性化させられないかということ考えたものである。スロープにより、自転車と人との緩やかな繋がりを生み出す。自転車を通して人と人との繋がりが、街と人との繋がりを作り出すきっかけとなる住宅である。



名和 宗谷(なわ そうや) 千葉大学
工学部 総合工学科 都市環境システムコース / 3年
課題出題時学年: 2年
出題教員名: 大川 信行、皆川 拓、丁 志映
指導教員名: 大川 信行、皆川 拓



18 地域と交換する集合住宅～もらい・あたえる恒常的地域をつくる～

現代の社会は様々な人や物、役割や環境などであふれ、それぞれ区分・種類・場所などに分けられる。しかし、この世界の中で生活しているヒトの営みは、すべてが連続しており、境界はない。区分・種類・場所などで区切られたとき、どちらにも分けられない、またはどちらにも当てはまるような曖昧なハザマのような空間をつくることで、人と人、人工と自然、古いものと新しいものをつなぐ。



岳本 陽菜(たけもと はるな) 芝浦工業大学
建築学部 建築学科 SAコース / 3年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 小菅 留香
指導教員名: 庵原 義隆



20 暮らしたい高円寺をつくる

中央線沿線のカルチャータウンとして有名な「高円寺」。歴史あるまちであり、レトロな小規模店舗も点在し、商店街は新旧の店が賑わい現在も活性化している。背後に広がる住宅地は、一戸建て住宅のほかに家族向けマンション、学生・独身者用アパートやワンルームマンションも多い。この高円寺での新たな暮らしを想像し、まちとの接点を考えながら魅力的な高円寺での暮らし空間を提案する。



原 香南花(はら かなは) 昭和女子大学
環境デザイン学部 環境デザイン学科 建築・インテリアデザインコース / 3年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 御手洗 龍、森田 祥子、田井 勝馬、杉浦 久子
指導教員名: 田井 勝馬



22 << 風景の中の住空間 >> ～くつろげる週末住宅～

普段都会で暮らしていると自ずと視線が高くなっていくのに慣れてしまい、外の自然への意識が薄まっている気持ちになる。週末は自然全体に視線を下げ、都会での暮らしでは体験できない日常を過ごせる週末住宅を提案。また、日本人は四季に敏感であり自然を感じる上で欠かせない要素である。そんな四季を目だけでなく、五感を使って感じれる空間を設計。違う視線で「非日常」な瞬間が広がる週末住宅である。



宮 敬汰(みや けいた) 多摩美術大学
美術学部 環境デザイン学科 建築デザインコース / 2年
課題出題時学年: 1年
出題教員名: 田淵 諭
指導教員名: 田淵 諭、湯澤 幸子、米谷 ひろし、木田 裕子



24 集合住宅 多様な住戸の集合による居住環境の設計

奏の社の再開発が進む中で失われつつある自然。私たち人間が自然から受ける恩恵は計り知れないほどたくさんある。都市と自然を結びつけるためには何かを考えた。それは立ち並ぶ建物の森と自然の森の融合。常に自然と共に生活し、自然の中に住む。どこにいても自然が目の前に広がる。都市にありながら、自然と共に生活する新しい感覚をこの建築で味わっていただきたい。



青木 依舞(あおき いぶき) 千葉工業大学
創造工学部 建築学科 / 3年
課題出題時学年: 2年
出題教員名: 石原 健也
指導教員名: 遠藤 政樹、武田 清明



25 都心の住宅地に建つ50年後のヴィンテージマンション

ハイブランドが並ぶ大通りのそばを、独立を夢見る若者が歩いている街です。クリエイティブなコミュニティは、人を集めて、文化になり、この場所は記憶に残って、やがて街のランドマークになるでしょう。キッチン、テラス、階段、住戸の関係を見直し、生活、表現、コミュニティの場になることを考えました。そこに集う人が自由に使うことで、小さな文化が生まれる集合住宅です。



熊田 晴(くまだ はる) 筑波大学
芸術専門学群 デザイン専攻 建築デザイン領域 / 3年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 花里 俊廣
指導教員名: 花里 俊廣



27 大島四丁目回地部分更新計画

高度経済成長期に建設された高層高密の集合住宅に対し、住棟の縦の層を取り除く「Split」と周囲に新たな住棟を建設する「Scatter」の二つの建築的操作を加える。これによりすべての住戸ユニットが角部屋となりより多くの方向から採光、通風が取れるようになり、住環境が改善される。さらに都市の壁としてそびえ立っていた既存住棟に視線・動線の抜けが生まれ都市とのつながりを形成する。



石川 敬一(いしかわ けいち) 東京大学
工学部 建築学科 / 3年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 大月 敏雄 指導教員名: 大月 敏雄、松田 雄二、佐藤 淳、李 ヨングン、有井 淳生、川嶋 貴介、千葉 元生、成瀬 友梨



29 住宅Ⅱ【第四課題】

家は大きい方が良い。そこで、家をとでも大きくしてみよう。すると身体から離れてしまう「大きい」は、空間を反転させることによって外を大きく取り込み、そしてその裏側で深さや長さとなって広がった。その薄い空間はクレパスのように、あるいは何かの葉のように深く、入り組む。ただ大きいのではなく、「大きい」ということを抛り所とした空間が、小さな私たちの居場所となる。



秋谷 匠太郎(あきや しょうたろう) 東京藝術大学
美術学部 建築科 / 3年
課題出題時学年: 2年
出題教員名: 青木 淳、坂板 留五
指導教員名: 青木 淳、坂板 留五、笹田 佑志



31 本と住む

これは一冊の本から作られた住宅である。ある夫婦の依頼によって彼らの大好きな小説に触れた私は群像小説と呼ばれるその文章構造を描く人々に強く惹かれ、複数の主人公的存在を創り出すこととした。現在のヒエラルキーを持つ住宅を解体し、同時に距離感で認識できる3つの入れ子を作り出すことで各々が互いを意識しながらも決して邪魔することない距離感を持つ空間が出来上がった。



渡邊 匠(わたなべ たくみ) 東京都市大学
建築都市デザイン学部 建築学科 / 3年
課題出題時学年: 2年
出題教員名: 手塚 貴晴
指導教員名: 杉本 拓海、佐々木 健



26 リンカケのないイエ

人間は誰しも違った性格や個性があるように、固有の領域を持っている。元から輪郭や領域や決まった家に住むことは、彼らの個性を制限し殺すことになる。構造に限界まで引き算をすることで領域に足し算を施し、壁の機能が残される部分と無くなる部分をつくる。ここに住む彼らが自らの個性たる領域を自分で決定し本来の領域を引き出すイエを提案する。



中山 太陽(なかやま たいよう) 東海大学
工学部 建築学科 / 3年
課題出題時学年: 3年 出題教員名: 白子 秀隆
指導教員名: 河内 一泰、山崎 俊裕、岩崎 克也、井上 玄、山口 紗由、山下 貴成、佐屋 香織、白子 秀隆



28 シェアハウス / ○○が集まって住む家

都会の中でも自然と触れ合う生活をしたい人が集って住む家を設計した。各空間で自然の要素を感じることができる。東向きに広く設けられた土間は、菜園作業に向く朝方の生活を誘導するような、朝日が差し込む空間にした。また、シェアハウスの魅力は一緒に過ごす時間にあると考える。広い屋上菜園でみんなで育てた野菜は、みんなで食べればよりおいしいだろう。



金谷 瑠奈(かなたに るな) 東京家政学院大学
現代生活学部 生活デザイン学科 / 3年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 前嶋 謙二
指導教員名: 前嶋 謙二



30 集合住宅の設計

住民の生活がにじんで交流が広がる。集合住宅の良さは、世代、趣味、生活の異なる住人が集まり暮らしていることである。しかし、生活する中で他の住民のことを知る機会が少なく日常的に関わる住民は限られるのが現状である。この点に着目し、各住戸に生活がにじむ空間、共用部に広がる空間を設けることによって、この良さを最大限に生かした集合住宅を提案する。



森 米未(もり くるみ) 東京電機大学
未来科学部 建築学科 / 3年
課題出題時学年: 2年
出題教員名: 山田 あすか
指導教員名: 井上 康



32 名作から考える

背景の異なる二つの名作住宅「清家清 私の家」と「バラガン邸」から、外との関係性の緻密な設計が空間の魅力の鍵になるという共通点を抽出した。庭を起点に配置を決め、屋根や壁で空と外を挟み込み外部を大きく取り込む。更にボリュームの隙間にくつもの小さな引き込みを仕込むことで、内外がどのように繋がり溶け合っていく。都市部の住宅街において、庭から豊かな空間の設計を目指した。



瀬底 実理(せそ みのり) 東京都市大学
都市環境学部 建築学科 / 3年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 秋山 怜史、三井 嶺、小泉 雅生、伊藤 喜彦
指導教員名: 三井 嶺、伊藤 喜彦



33 根津に住む

「流れる家」は根津の蛇道沿いに位置する。蛇道は昔、藍染川が流れていたため、蛇行している。この特徴から、川の流れに焦点を当て、「流れ」を意識した住宅を設計した。住宅における流れとは、造形的な流れ(曲線)、人の流れ(動線)、時の流れ(老いや子供の成長)がある。曲線を平面的にも断面的にも取り入れることで、内外部の人の動きを誘導し、多様な距離感のある空間にした。



山本 夏生(やまもと なつき) 東京理科大学
工学部 建築学科 / 2年
課題出題時学年: 2年
出題教員名: 石橋 敦之、伊藤 孝仁、船木 幸子、峯田 建、池田 雪絵、熊谷 亮平 指導教員名: 伊藤 孝仁



35 街のなかの家、家で作る街

戦後の近代化に伴い住宅の画一化、孤立が進み、外部の人間の存在を遮断する考えの住宅がふれていった。やや風変わりな構成の6人家族を中心に「いえ」と「まち」の関係性を見直し、住宅が街のコンテクストの一部であることを改めて、都内の住宅街において模索する。街の居場所を内包することで孤立した住宅、住人同士をつなぐことを目指し、住宅密集地における新たな可能性を提案する。



大八木 裕貴(おおやぎ ゆうき) 東洋大学
理工学部 建築学科 / 3年
課題出題時学年: 2年
出題教員名: 篠崎 正彦 指導教員名: 篠崎 正彦

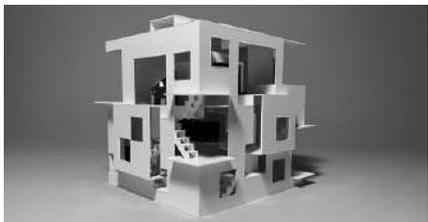


37 これからの集合住宅

コロナが流行り、人と離れてみて感じたことは、人と関わることの大切さである。アフターコロナの住宅は、家族と人の温もりを感じる空間が必要だと考えた。全体的に凹凸がある外観は、建物の視線を中庭に集中させ、住民同士、中庭で遊んでいる子供を見守ることができるようにした。反面、生活空間は、プライベートである必要性を考慮し、窓の位置を調整や道から庭が見えない工夫をした。



弓削田 希宣(ゆげたまの) 日本大学
芸術学部 デザイン学科 / 3年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 東 利恵 指導教員名: 東 利恵



39 8mキューブの小住宅

押し出す、引き出すという秩序をもとに人間のスケールを考慮し、キューブの6面すべてに押し出す操作と引く操作を施した。壁が引き出されたことにより、隙間が生じ光と風の通り道となる。壁が押し出されたことにより、外部空間と内部空間の境目がなくなり、開放的な空間が生まれる。壁による窮屈さを減らし、個人的空間としても大人数で楽しむことも可能な空間を実現した。



細川 日和(ほそかわ ひより) 日本大学
生産工学部 建築工学科 建築デザインコース / 3年
課題出題時学年: 2年
出題教員名: 篠崎 健一、長沖 充、泉 幸甫 指導教員名: 篠崎 健一、長沖 充

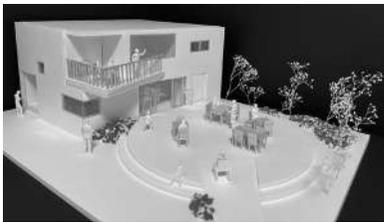


34 私の住まう将来の住宅

量産・箱型住宅の水平垂直に囲まれて私は育った。その閉鎖的な空間は、家の中で孤独すら感じさせる。そこで本設計では量産・箱型の単調な空間からの脱却を試みた。一边が2.7mの均質な面材を持つ立方体の頂点と辺を軸に、開く・折る・持ち上げる3つの動作で多様性と開放感を持たせた。各箱を組替え、繋ぎ合わせて余白を持たせ、家族構成の変化に応じて増殖、展開する住宅を提案する。



出口 陽菜(でぐち ひな) 東京理科大学
理工学部 建築学科 / 2年
課題出題時学年: 2年 出題教員名: 岩岡 竜夫、森清 敏、中畑 昌之、大成 優子、いしまる あきこ、内藤 将俊、小林 佐絵子、大村 高広、高柳 誠也、堀越 一希 指導教員名: いしまる あきこ



36 「5人の閉じた家」から「2人の開いた家」へ

地域の人立ち寄りやすいと感じる開放的な展示空間と、その空間に誘導されるような庭・テラスを提案する。展示空間は、吹抜けとテラスに面した大きな開口部によって開放感を持たせた。屋内やテラスのコミュニティスペースは、地域の住人同士での交流を促すことを考えて設計した。人が集まることで、夫婦二人きりでも寂しさを感じない、地域に開いた住宅を考えた。



石沢 夢々(いしざわ ゆゆ) 東洋大学
ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科 / 2年
課題出題時学年: 2年 出題教員名: 内田 祥士、柏樹 良、名取 亮 指導教員名: 内田 祥士、柏樹 良、名取 亮、小林 進一、井上 晃良、窪川 勝哉、佐々木 龍郎、船木 幸子、高橋 直子



38 街に開く集住体―神楽坂の集合住宅

風情漂う街並みをもつ神楽坂。その歴史的風景が時代と共に衰退しつつある。そこで、神楽坂の文化を継承させる手段として、アートに焦点を当てた。「アーティストの住まう集合住宅」×「街の来訪者が行き交う広場」異なる空間を素材でぼかし、時間の共有を持たせることで街の文化の発信源となる。



三野 穂絵(みの ほりえ) 日本大学
生産工学部 建築工学科 建築総合コース / 3年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 北野 幸樹 指導教員名: 大塚 隆光

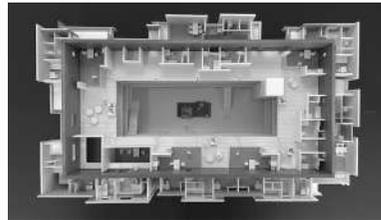


40 都市の集住

都市の中で暮らすは閉じこもっており、コロナ禍によりさらに仕事や娯楽などで住居内に閉じこもってしまった。この集合住宅では、つながる板の上で日常の活動を開くことができる。暮らしの一部となる板が、椅子や机などの機能を持ちながら、全体としてつながっていくことで、「集まって住む」ということを感じられる集合住宅を提案する。



野口 裕莉菜(のぐち ゆりな) 日本大学
生産工学部 建築工学科 居住空間デザインコース / 4年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 鍋島 千恵、渡邊 康 指導教員名: 鍋島 千恵、渡邊 康



41 代官山コンプレックス

相反するものが共存する複合施設を提案する。リサーチより、相反するものが共存しそれぞれの要素が対立することによって初めて互いの存在を認識できるといことに魅力を感じ、相反するものが共存している複合施設をつくりたいと考えた。相反するものを「内部と外部」という具体的な事象に落とし込み、住戸、商業、それぞれに「内部を感じる空間」と「外部を感じる空間」を共存させた。



大森 そよ風(おおもり そよか) 日本大学
理工学部 建築学科 / 3年
課題出題時学年: 3年 出題教員名: 今村 雅樹、今村 水紀、内部 美玲、永岡 琢夫、小泉 雅生、佐藤 光彦、篠崎 弘之、高橋 堅、塚田 修大、宮永 大毅、野島 秀仁、廣部 剛司、古澤 大輔、賀神 尚史、水野 吉樹、山中 新太郎 指導教員名: 佐藤 光彦



43 地域に開かれた学生寮

計画地は、東武動物公園駅から徒歩降りた人々がよく利用するメインストリートに位置している。敷地の真向かいにある美術館や駅との繋がり意識し、学生寮を左右に分断し通り抜けできるように設計した。また、学生寮に加えてカフェやワークショップ、キッチンカースペースなど、地域の多様なニーズに応えられる空間を設け、学生と地域住民とのコミュニティが生まれる場を提案した。



尾島 惇聖(おしま じゅんせい) 日本工業大学
建築学部 建築学科 建築コース / 2年
課題出題時学年: 2年
出題教員名: 小川 次郎、平林 政道、小山 大吾 指導教員名: 小川 次郎



45 学生と街と暮らし

敷地である雑司ヶ谷には木造住宅が立ち並び、その木密の距離感を踏襲し、柱を林のように配置した。身体スケールと都市スケールを融合させて場を形成することで、環境を活かしながら密集して住むことの暮らしの豊かさを提案する。また、高さの異なる隣人の床が自分の部屋にはみ出すことで机になったり天井の低い空間が出現したりと、部屋の中においても住民同士につながりが生まれている。



平野 紗菜(ひらの さな) 日本女子大学
家政学部 住居学科 居住環境デザイン専攻・建築デザイン専攻 / 3年
課題出題時学年: 2年
出題教員名: 片山 伸也、江尻 憲宏、宮 晶子、東 利恵、武田 清明、針谷 將史、稲垣 淳哉、川島 真由美 指導教員名: 針谷 將史



47 内と外

雨が一滴落ちただけで、その空間のウチとソトが入れ替わる、その空間を「揺蕩い」と呼ぶ。曲線壁のフレームによりシーンを連続することで、私の暮らしが揺らぎ、そして周りの住戸に波及していく。



佐藤 碧(さとう あおい) 法政大学
デザイン工学部 建築学科 / 3年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 下吹越 武人、山道 拓人、御手洗 龍、津野 恵美子 指導教員名: 津野 恵美子、山道 拓人



42 水と共に生きる集合住宅

私達は日々孤独を感じている。集まって住まうこと、それは住民が互いに支え合い、共に生きるということである。今回の木壁は生活の領域を可視化し、囲まれることが住民に居心地と安心感を与える。開口部が周辺環境や人々の暮らしを紡ぎ、木壁によって生まれた空間は多様なプログラムが発生し住民同士の出会いと交流を促す。世帯や世代を超えた繋がりと共に生きる喜びと豊かな生活を生む。



櫻井 彩音(さくらい あやね) 日本大学
理工学部 海洋建築工学科 / 3年
課題出題時学年: 2年
出題教員名: 小林 直明、小野 和幸 指導教員名: 筒井 紀博



44 シェアハウスの設計

階段を個人の生活の場とし、重なり合う階段ボリュームのまわりで交流ができるシェアハウスを提案する。ひとり一つの階段に座ったり寄りかかったりすることや、出窓に用途を設けることで生活空間をつくっている。個人スペースごとに玄関があり、それらに囲まれた共用スペースに繋がっている。生活する場所によって変化する景色や音、階段の下を抜けて地域の人々と繋がる開放感を意識した。



林 明歩(はやし あきは) 日本工業大学
建築学部 建築学科 生活環境デザインコース / 2年
課題出題時学年: 2年
出題教員名: 足立 真、麻生 征太郎 指導教員名: 足立 真、麻生 征太郎



46 都市部に建つ戸建住宅

人は見た目が変われば中身も変わる。逆も然り。すなわち内面と外見は互いに作用する関係にある。内面を映し出すのは自身の外見だけではない。それが仕事なら環境に入る。建築ならどうだろうか。内と外は切っても切り離せない。



河村 拓磨(かわむら たくまさ) 文化学園大学
造形学部 建築・インテリア学科 / 2年
課題出題時学年: 2年
出題教員名: 谷口 久美子、久木 章江、渡邊 裕子、奥村 誠一、種田 元晴、趙 晟恩 指導教員名: 種田 元晴



48 「ポストコロナ」の前橋中心市街地に建つ集合住宅

前橋の中央通り商店街にポストコロナの集合住宅を提案する。コロナの影響や商店街の衰退で、利用者は減少し、モノを売り買いするだけの単純な関係性が存在しないなか、前橋の文化や歴史、地形から導き出した3層の構成【川岸の記憶】【繁栄と衰退】【未来の景色】で新たな関係を形成する場をつくり、それらが既存のアーケードなどと関わり合い、全体に広がっていく新たな生活拠点。



井田 昂志(いだけたかし) 前橋工科大学
工学部 建築学科 / 3年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 石黒 由紀、若松 均 指導教員名: 石黒 由紀、若松 均、青木 弘司、高塚 章夫



49 集い、行き交う場—これからの学生寮—

学生寮における課題は平準化された生活が営まれていることだと考える。そして今、コロナ禍における学生寮で「集まり」をどう表現するか。個性を尊重しながら刻々と変化する状況に対応できる空間を提案する。分散された個室やそれを支える2枚の壁が壁が多様さは、その空間にいる人それぞれにとっての快適さだけでなく、新しいつながり方を提供する。



石田 菜々弓(いしだ ななみ) 前橋工科大学
工学部 総合デザイン工学科 / 3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:杉浦 榮
指導教員名:杉浦 榮、駒田 剛司



51 敷地選択型 住宅プロジェクト

西荻窪の商店街と路地の角地を敷地に選定した。商店街には看板建築が立ち並び、道を介して商業的な活気を共有している。一方で住民の高齢化による衰退の陰りもあり、一步路地に入ると中高層の集合住宅が密集しているといったように街の様相は変わり続けている。西荻窪の面的な秩序を踏襲しながら、現状をモジュールの混在と捉え設計を進めた。



宮地 凌央(みやじ りょうお) 武蔵野美術大学
造形学部 建築学科 / 4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:布施 茂、青木 弘司
指導教員名:布施 茂、青木 弘司

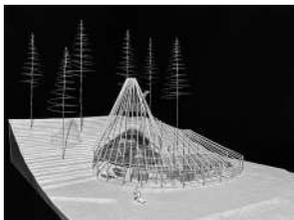


53 《集住の現在形——明治大学国際混住学生寮》

「小さなことからまちをかえる」をコンセプトに多様な外部空間を階段でつなぎ、積み上げていきました。すると建物は一体感を持った小さなまちのようになり、そのまちは養生によって変化し、彩られていきます。そしてそれは周辺のまちを変えていく力になり、建物とまちの境界線はいつかなくなっていくのではないのでしょうか。



山田 拓弥(やまだ たくみ) 明治大学
理工学部 建築学科 / 3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:青井 哲人
指導教員名:駒田 由香

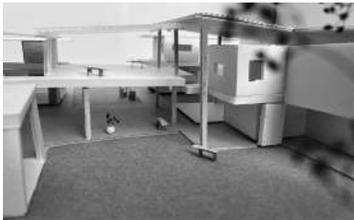


55 自然のなかの居住単位

自然の中の建築は、自然に応えるだけでなく、自然が持つ魅力を最大限に引き出すものでなければならぬ。この住宅では、特徴的な冬の雪と夏の星に注目し、地面に積もる雪に対しては水平、空に広がる星に対しては垂直に働きかけている。それらを雪国にとって重要な屋根形状によってなめらかに繋ぐことで、住宅を取り巻く自然の魅力を引き出す新しい空間をつくる。



高塚 惇矢(たかつか じゅんや) 横浜国立大学
都市科学部 建築学科 / 3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:藤原 徹平、南俊 允
指導教員名:藤原 徹平、富永 美保、萬代 基介、南俊 允



50 個人と社会の接点としての住まい

敷地は武蔵野市の公園につながる、畑に面した遊歩道と東伏見大通りに挟まれた場所である。大家と大学生が中心となり、まちの拠点として個人と社会の接点となる場の提案である。土間という空間を住宅、そして街のつながる場、として共有できる空間である。近くの畑に農業体験に行く拠点、シェアキッチンから食を通じ、地域の関わりを創り出す7世帯のcommonsとしての住宅を提案する。



松本 紗季(まつもと きさき) 武蔵野大学
工学部 建築デザイン学科 / 3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:伊藤 泰彦、大塚 聡、岡田 雅人、松尾 宙、市川 竜吾
指導教員名:伊藤 泰彦

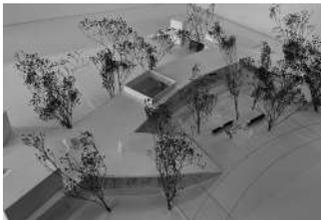


52 今日的な共用住宅(シェアハウス)

飲食店の経営を目指したい単身世帯と老後に自分のお店を持つことが夢だった高齢者世帯の2つの夢が叶うようなシェアハウス。2階には『居住者で営むカフェ・commonsベースのテラス』、1階は『生活に欠かせない居住エリア』、地下1階は『非日常的空間の寝室』の3層で構成する。*新浦安に計画する共用住宅*ならではのニーズと競合優位性という観点から今日の共用住宅を提案する。



小野 愛莉(おの あいり) 明海大学
不動産学部 不動産学科 デザインコース / 3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:鈴木 陽子、塚原 光顕
指導教員名:鈴木 陽子、塚原 光顕



54 更新する学生寮

比較的近隣住民の利用が多い敷地の通路を横断するように学生寮を計画した。帯を軸とし居室と共有スペースを散りばめた。学生間の交流に留まらず地域住民との交流を促すため、学生自身が居室や共有スペースをデザインし制作することで、ものづくりを介し地域の人との交流を深める。



野中 大誠(のなか たいせい) ものづくり大学
技能工芸学部 建設学科 建築デザインコース / 4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:岡田 公彦
指導教員名:岡田 公彦、朽木 宏、今井 弘



56 早稲田のまちのキャンパス・プロポーザル—早稲田のまちに学び、早稲田のまちに住む—

戸山ハイツの中には有り余るほどの余白空間が存在する。早稲田の街の魅力を高めるために、この戸山ハイツに有り余り、返って人流を阻害している余剰空間に、MassとVoidの新たな複層を作り出すことで、高くそびえ立つ壁に囲まれる団地内部空間に新たな居場所を作り出す。子供、学生、家族、高齢者が半パブリックから半プライベートまで多様な距離感で関わり合う空間を設計する。



福本 翔太(ふくもと しょうた) 早稲田大学
創造理工学部 建築学科 / 3年
課題出題時学年:2年 出題教員名:有賀 隆、市川 均、小林 恵吾、小岩 正樹、宮本 佳明、中谷 礼仁、野田 明宏、王 薪鹏、矢口 哲也、吉江 俊 指導教員名:有賀 隆、市川 均、小林 恵吾、小岩 正樹、宮本 佳明、中谷 礼仁、野田 明宏、王 薪鹏、矢口 哲也、吉江 俊

41大学56学科の代表作品展[建築系大学住宅課題優秀作品展]

第22回 住宅課題賞2022

—各々の視点の空間を生かして—

主催	： 一般社団法人 東京建築士会
企画	： 東京建築士会 事業委員会
後援	： 公益社団法人 日本建築士会連合会 一般社団法人 東京都建築士事務所協会 一般社団法人 日本建築学会 関東支部 公益社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部 株式会社 新建築社 株式会社 エクスナレッジ
協賛	： 株式会社 建築資料研究社 日本住宅 株式会社 株式会社 市浦ハウジング&プランニング 株式会社 ガネット 大成建設 株式会社 東京パワーテクノロジー 株式会社 飛鳥建設 株式会社 株式会社 ピアレックス・テクノロジーズ
会場構成	： 濱野 裕司(株式会社 竹中工務店)
協力	： 公益財団法人 ギャラリー エー クワッド 工学院大学 木下庸子研究室+富永祥子研究室

[カタログ]

企画・編集：鴛海浩康、梅津洋佑／一般社団法人 東京建築士会

デザイン・制作：株式会社 ケシオン

発行：一般社団法人 東京建築士会

一般社団法人 東京建築士会

〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町11番1号 富沢町111ビル5階

[T E L]03-3527-3100(代) [F A X]03-3527-3101

[E-mail]event02@tokyokenchikushikai.or.jp

[U R L]https://www.tokyokenchikushikai.or.jp

© 一般社団法人 東京建築士会 2022

ICHIURA HOUSING & PLANNING

<http://www.ichiura.co.jp/>

GANNET.inc

会社概要 **株式会社ガネット**
 東京本社 〒150-0045 東京都渋谷区神泉町 8-16 渋谷ファーストプレイス 1F
 TEL: 03-5457-5825 FAX: 03-3461-1815
 大阪オフィス 〒530-0051 大阪府大阪市北区太融寺町 5-13 東梅田パークビル 2F
 TEL: 06-4792-7740 FAX: 06-6362-7750
 名古屋オフィス 〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南 1-17-29 広小路 ESビル 1F
 TEL: 052-446-7703 FAX: 052-446-7704

代表取締役: 藤田 達也
 URL: <https://gannet.co.jp/>



事業内容 ●**研修サービス**
 ・学校機能構築プロジェクト
 弊社が運営する「日本総合福祉アカデミー」のサテライト校として介護施設内・病院内に法人専用校を設置し、初任者研修、実務者研修(外国人向けも対応)、嚙痕吸引研修など多岐にわたる指定研修、非指定研修を法人内にて受講できる、業界初の請負研修サービス
 ●**採用サービス**
 ・新卒 & 中途採用コンサルティング & アウトソーシングサービス
 ●**WEBサービス**
 ・介護学校専用WEBサイト「School Branding Pro」の運営、販売

大成建設 TAISEI

For a Lively World

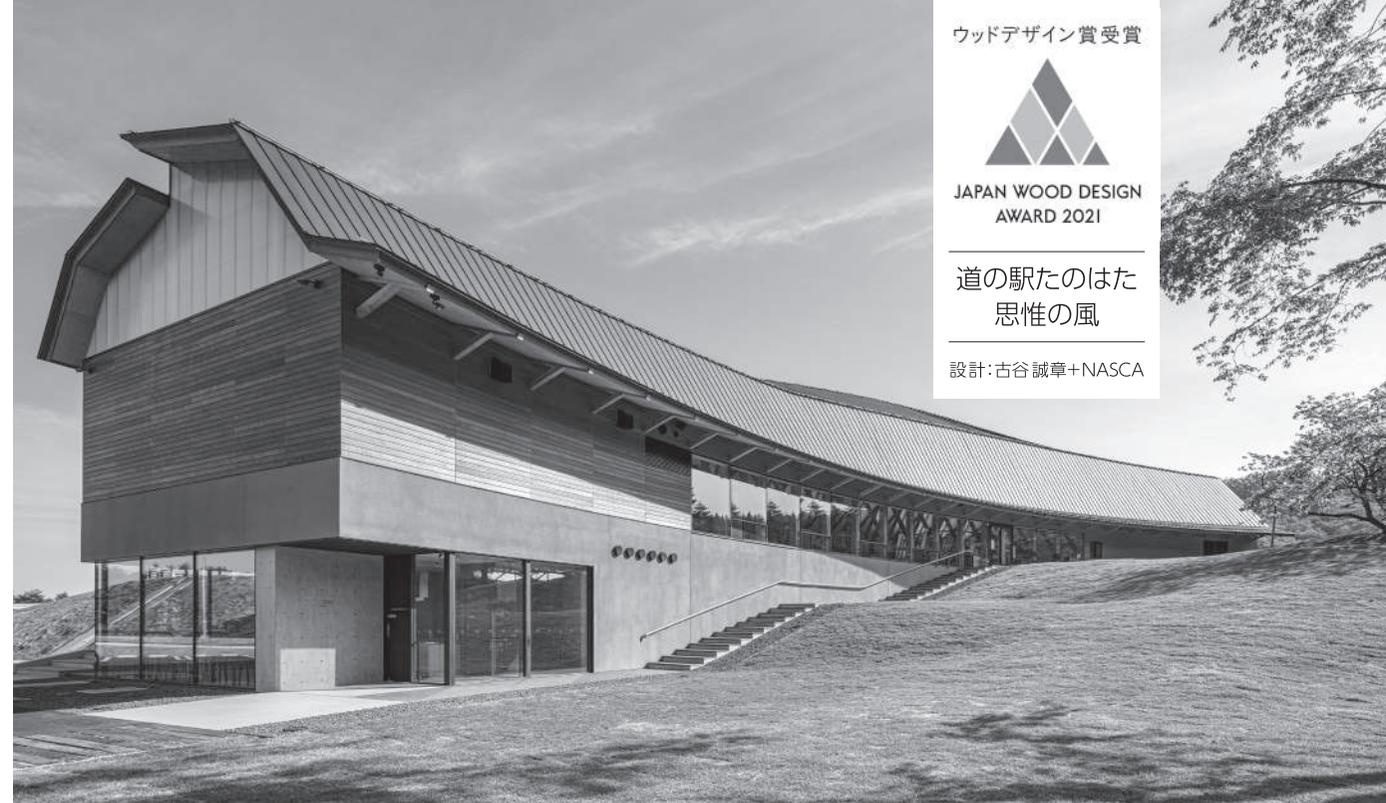
<https://www.taisei.co.jp/>



Tokyo Power Technology

エネルギーの未来を切り拓く

<https://www.tokyo-pt.co.jp/>



ウッドデザイン賞受賞



JAPAN WOOD DESIGN
AWARD 2021

道の駅たのはた
思惟の風

設計: 古谷誠章+NASCA

New Business Contractor



解決のピースは
トビシマにあります。

人々の価値観や行動様式が急激な変革期を迎えている現代。それはまるで様々な問題が複雑に絡み合ったパズルのよう。私たちがトビシマはこの「社会課題のピース」を厳選・培った優れた技術と知識で解決し、社会と企業間のサステナビリティの融合を目指してまいります。

スマートな未来へ New Business Contractor

飛島建設



“見えない”が見えてくる。
 打ち放しコンクリート
ピアレックスRC工法
 | N-RCシステム
 フッ素樹脂光触媒クリアー仕上げ
 | G-PFシステム
 打ち放しコンクリート調描画工法 光触媒コート仕上げ

光触媒機能をもつフッ素樹脂塗料「ピュアコート」開発・製造・施工・販売
株式会社ピアレックス・テクノロジーズ

本社 / 〒595-0016 大阪府泉大津市泉南町4-14
 研究センター TEL: 0725-22-5361 / FAX: 0725-22-5363
 東京営業所 〒111-0042 東京都台東区寿3-14-11 蔵前チヨダビル7階
 TEL: 03-5830-0055 / FAX: 03-5830-0056
 中部営業所 〒510-5114 三重県三重郡川越町亀崎新田77-508
 TEL: 059-363-5151
www.pialex.co.jp
 Q ピアレックスRC工法



経営を売る会社



日本住宅株式会社

マイナビ・日経 2023年卒 大学生就職企業人気ランキング 東北エリア 第2位

全国各都市にてインターンシップ開催中

お申し込みは



日本住宅株式会社

本社 / 〒020-0838 岩手県盛岡市津志田中央1-3-28

本部 / 〒100-6317 東京都千代田区丸の内2-4-1 丸の内ビルディング17F

一般社団法人日本ソーパワァー建築協会会員 特定建設業 / 国土交通大臣許可(特3)第15622号(建築・土木) 宅地建物取引業免許 / 国土交通大臣(6)第5326号

1級建築士 業界実績 No.1

日建学院は**受講生ファースト**。
だから、これからも
合格にこだわり続けます!

平成元年～令和3年
当学院
合格実績

1級建築士
93,110人
(全国累計 165,868人)

当学院の1級建築士
合格占有率

56.1%

33年間に誕生した1級建築士の半数以上が日建学院生です!

※上記全国累計は(公財)建築技術教育普及センター発表試験結果(1989年～2021年)のデータです。

学生時代の
今だけ!

学割価格で
1級建築士

1級建築士スーパー本科講座 学割適応で受講料**10万円**引き
2級建築士問題解説講座 学割適応で受講料**17万円**引き

※2022年9月現在の割引額となります。



代表取締役 馬場 栄一

私も日建学院で
1級建築士を取得しました!
だからこそできる**受講生ファースト!**
コンプライアンスを重視し、**徹底的にサポート!**

1992年 3月 早稲田大学理工学部建築学科卒業
1992年 3月 大成建設東京支店入社
※在職中に1級建築士/
1級建築施工管理技士 取得(日建学院 通学)
2000年 1月 ㈱建築資料研究社/日建学院に入社
2007年 7月 代表取締役社長 就任 現在に至る

最短ストレート合格!

建築士法改正後、
1級建築士
全国最年少合格者(20歳)も
日建学院生!

全国各地で日建学院を利用してストレート合格
された方々の熱いメッセージを集めました!!

最短ストレート合格
News

詳しくはQRから! >>>



1級建築士合格者
大下 帆空さん
大学生

学生時代に学習を始めて
最年少合格者たち

1級建築士合格者
大澤 政俊さん
建設業(施工管理)

建築系学生の方に対する日建学院の取り組みをご紹介します!

NSS Nikken
Support
System

ニッケン サポート システム

建築系学生応援システム

Nikken Support System(ニッケンサポートシステム)は
無料でご利用いただける学生限定の会員サービスです。

対象

建築系の大学・短大・高専・専門学校・
工業高校・各種学校(職業訓練校等)の
学生様が対象となります。

6大特典

1 Web映像コンテンツ
無料視聴

キャリアアップや就職活動に
役立つコンテンツを無料で視聴

2 NSSバイト

様々なアルバイト情報をご案内

3 当社出版物学割購入

建築士量研社の出版物を
10%割引の会員価格で購入できます

4 日建学院個別ブース
無料利用

自習もコンテンツ視聴もできる個別
ブースを無料で利用!(※要予約)

5 メルマガ配信

建築系学生のための情報発信サイト
LUCHTA(ルфта)の情報も発信

6 資格試験
受験サポート

資格試験の情報提供、
本試験の採点サービスなど



お申込みは
こちら!



業界セミナー

建築系学生のために開催する
建築業界特化型のイベント!



参加される企業は建築業界のリーディングカンパニー、成長企業、
業績好調企業ばかり!
1日で業界研究が一気に進むことは間違いありません!

東京会場

建築業界企業 建築系学生
40社 × 400名

日時/2022年**11月19日(土)** 11:00~17:00
会場/新宿NSビル



トウキョウ建築コレクション協賛

「トウキョウ建築コレクション」は、修士
設計や修士論文などの作品を集めて展
示し議論をする、全国規模の建築系イ
ベントです。建築資料研究社/日建学
院がこの大会のオフィシャルブックを出版
しています!



教材提供



当社出版している雑誌「住宅建築」や「CONFORT」、「庭」、二
次試験課題の参考ともなる[新]建築設計資料。また、法令集・
非売品のテキスト等ご必要に応じてお買い求めいただけます。

東京建築士会会員様【特別割引】あり 詳しくは、下記の日建学院まで!

日建学院

日建学院なら全国に267拠点

池袋校 03-3971-1101 新宿校 03-6894-5800 上野校 03-5818-0732

新橋校 03-6858-4650 吉祥寺校 0422-28-5001 北千住校 03-6850-0120

立川校 042-527-3291

詳しくはHPをご覧ください>>>

